

発がんプロモーションに関してこれまでに行われた試験一覧

■ 今回の諮問前に行われた試験（途中経過のものを含む。）

- 試験 A** ジアシルグリセロール（DAG）の発がんプロモーション作用に関する研究
平成 15 年度厚生労働科学研究費補助金総合研究報告書
（国立がんセンター研究所、飯郷先生）
備考：イニシエーション時に DAG が投与されているなどの指摘あり。結論に至らなかった。個体数を増やし、高用量、長期間の追加試験が必要とされた。
- 試験 B** ジアシルグリセロール（DAG）の大腸がん促進作用試験
平成 15 年度 健康食品等に関わる試験検査の実施について
（国立がんセンター研究所、若林先生）
備考：大腸がんに対して、野生型ラットでは抑制的に作用する可能性が示され、ヒトの家族性大腸腺腫症のモデルマウスでは促進的に作用する可能性が示されたことから、結論に至らなかった。
- 試験 C** DAG の中期多臓器発がん性試験
（事業者委託、(株)DIMS 医科学研究所実施）
備考：全身諸器官に対してプロモーション作用はないとされた。
- 試験 D** 野生型マウスを用いた皮膚二段階発がん試験
（国立がんセンター研究所、若林先生）
D-1：1 日 1 回週 2 日塗布
備考：第 4 回 WG で中間報告（20 週目）あり。最終報告は未。

■ 諮問以降に行われた試験

- 試験 D** 野生型マウスを用いた皮膚二段階発がん試験 **資料 4**
（国立がんセンター研究所、若林先生）
D-2：1 日 1 回週 5 日 3 5 週塗布
D-3：1 日 2 回週 5 日 3 5 週塗布
備考：今回報告予定（プロモーション作用を示した）。
- 試験 E** 野生型ラットを用いた舌二段階発がん試験 **資料 5**
平成 17-18 年度 食品等試験検査費（国立医薬品食品衛生研究所、西川先生）
備考：今回報告予定（プロモーション作用を認めず）。
- 試験 F** トランスジェニック（Tg）ラットを用いた舌二段階発がん試験 **資料 6**
F-1 Tg ラットを用いた舌二段階発がん試験（ポストイニシエーション期）
（(株)DIMS 医科学研究所（名古屋市立大学、津田先生））
F-2 Tg ラットを用いた舌二段階発がん試験（イニシエーション期・ポストイニシエーション期）（名古屋市立大学、津田先生） ← **試験 A** について、さらに高用量、長期間で行ったもの。
備考：今回報告予定（プロモーション作用について評価できない）。
- 試験 G** Tg ラットを用いた舌・乳腺二段階発がん試験 **資料 7**
（食品安全委員会 平成 17～19 年度食品健康影響評価技術研究（名古屋市立大学、津田先生））
備考：今回報告予定（舌にはプロモーション作用を認めず、乳腺にプロモーション作用の可能性を示す）。

(参考：各資料において用いられている試験名)

試験 D 野生型マウスを用いた皮膚二段階発がん試験

(国立がんセンター研究所、若林先生)

資料 4 「マウス皮膚二段階発がんモデルにおける、高濃度にジアシルグリセロールを含む食用油の発がんプロモーション活性の検討
(国立がんセンター研究所 所長 若林敬二) 」

試験 E 野生型ラットを用いた舌二段階発がん試験

平成 17-18 年度 食品等試験検査費 (国立医薬品食品衛生研究所、西川先生)

資料 5 「ジアシルグリセロール (DAG) の舌発がんプロモーション作用試験
(国立医薬品食品衛生研究所 病理部長 西川秋佳) 」

試験 F トランスジェニック (Tg) ラットを用いた舌二段階発がん試験

F-1 Tg ラットを用いた舌二段階発がん試験 (ポストイニシエーション期)

((株)DIMS 医科学研究所 (名古屋市立大学、津田先生))

資料 6 「I. Diacylglycerol のヒトプロト型 c-Ha-ras 遺伝子導入ラットを用いた上部消化管の二段階発がん修飾試験 (混餌投与)
((株)DIMS 医科学研究所 (名古屋市立大学大学院医学系研究科 教授 津田洋幸)) 」

F-2 Tg ラットを用いた舌二段階発がん試験 (イニシエーション期・ポストイニシエーション期) (名古屋市立大学、津田先生)

資料 6 「II. ヒトプロト型 c-Ha-ras 遺伝子導入ラットを用いた高用量 (11% 混餌) Diacylglycerol の上部消化管の発がん増強・促進試験 (混餌投与) (名古屋市立大学大学院医学系研究科 教授 津田洋幸) 」

試験 G Tg ラットを用いた舌・乳腺二段階発がん試験

(食品安全委員会 平成 17～19 年度食品健康影響評価技術研究 (名古屋市立大学、津田先生))

資料 7 「食品安全委員会 平成 17～19 年度食品健康影響評価技術研究
環境化学物質の発がん性・遺伝毒性に関する検索法の確立と閾値の検討
(主任研究者：名古屋市立大学大学院医学系研究科 教授 津田洋幸) 」